

# 安全データシート

新富士バーナー株式会社  
住所 愛知県豊川市御津町御幸浜字一号地1-3  
電話 0533(75)5000  
担当者 木邨 吉伸

1) 作成日 平成17年6月30日

2) 製品名 棒ハンダ(RZ-106ハンダ)

3) 物質の特定

物質名	錫	鉛	不純物
含有量	50%	50%	0.12%以下
CAS-No	7440-31-5	7439-92-1	
分子式	Sn	Pb	

不純物はBi、Zn、Fe、Al等

4) 人体への影響 鉛を長期間吸収した場合中毒症状が現れる。  
おもな症状は貧血、衰弱、便秘、腹部の激痛、麻痺、手首・足首のしびれで、  
ほかに中枢神経障害として、鉛脳症におかされることがある。

5) 許容濃度と毒性

物質名	大気中濃度	排水中濃度
錫	2mg/m <sup>3</sup>	2mg/m <sup>3</sup>
鉛	50μg/m <sup>3</sup>	0.1mg/m <sup>3</sup>

μg (マイクログラム)

6) 取り扱い上の注意 取り扱い: 換気の良い場所で作業する。保護具(手袋・マスク等を着用する。  
飲食、喫煙の前に必ず手を洗うがいをする。  
保管: 常温にて保存し直射日光、雨ざらし、腐食性雰囲気は避けて保存する。

7) 漏洩時の処置 スコップ等で掬い取り安全な場所に移動する。

8) 火災時の措置 消化方法: 不燃性物質  
消化剤: 特に制約なし

9) 救急時の処置 目に入った場合: 流水で十分洗い直ちに専門医の診断を受ける。  
皮膚に付着した場合: 石鹼と多量の水を用いて十分洗い流し、異常のある場合  
は専門医の診断を受ける。  
飲み込んだ場合: 多量の水を飲ませた後、吐かせて、直ちに専門医の診断を  
受ける。

10) 廃棄・除害処置 下水や側溝にそのまま流してはならない。  
0.1mg/l以上の排水に付いては下水処理施設を設け処理した上で排水  
しなければならない。(水質汚濁防止法第9条の4)  
廃棄の場合都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物業者に委託する。

11) 危険有毒性 大気汚染の原因とみなされており、今日では使用がきびしく規制されている。

12) 適用法令 労働安全衛生法 鉛中毒予防規則(第1条)  
PRTR法(第一種指定化学物質)

13) その他 この情報は品質を保証するものではありません。個々の使用に対する使用条件  
や製品の適正は弊社の管理外となります。ご使用者は、使用目的及び使用状況を  
考慮に入れ、適切な注意喚起や安全な取り扱いと管理を行ってください。

#### 14) データ

##### 鉛のデータ

今日では鉛中毒の治療にエチレンジアミン四酢酸(EDTA)とカルシウム・ナトリウムのキレート化合物が治療薬として投与される。この薬を服用すると、EDTAと結合したカルシウムが体内の鉛とおきかわり、鉛は安定な化合物となって尿の中に排出されるのである。  
元素記号Pb。原子番号82。原子量207.2。周期表(→ 周期律)の14族に属する。安定同位体と存在比は、208:52.3481%、206:24.1447%、207:22.0827%、204:1.425%。融点327-C。沸点1751-C。密度11.342g/cm<sup>3</sup>(20-C)。地殻中の存在量は13ppm。

##### 錫のデータ

酸化物は触媒として、有機スズはプラスチックに安定化剤として添加されるほか、殺菌作用があるため、魚網の防汚剤や、フジツボなどの付着防止用の船体塗料につかわれる。しかし、魚から有機スズ系塗料が検出され、人体への害を懸念して通産省と厚生省は1990年(平成2)に一部有機スズ化合物の使用を禁止した。  
元素記号Sn。原子番号50。原子量118.710。融点232-C。沸点約2623-C。地殻中の存在量2.1ppm。

# 安全データシート

新富士バーナー株式会社  
住所 愛知県豊川市御津町御幸浜字一号地1-3  
電話 0533(75)5000  
担当者 木邨 吉伸

1) 作成日 平成19年6月16日

2) 製品名 ハンダフラックス

3) 物質の特定

化学名	グリセリン	臭化水素酸
含有量	90%	10%
CAS-No	56-81-5	10035-10-6

臭化水素単体のMSDSは別紙

4) 危険有害性の分類

分類の名称: 分類基準に該当しない  
危険性: 消防法危険物 第4類第3石油類(水溶性)  
有害性: 吸入により眼、皮膚、粘膜気管などを刺激する  
摂取により不眠、嘔吐、下痢、発熱、痙攣、などをきたす事がある

環境影響: 知見なし

5) 応急処置

目に入った場合: 直ちに清水で15分以上水洗し専門医の診断を受ける  
皮膚に付着した場合: 石鹼で十分洗浄し、必要に応じ専門医の診断を受ける  
吸入した場合: 鼻をかんで、うがいをする  
飲み込んだ場合: 水でよく口の中を洗い、吐かせる

6) 火災時の措置

消化方法: 初期の火災には水の噴霧、炭酸ガス、ドライケミカルなどの消火器を用いる。大規模火災の際には泡消化剤などで空気を遮断することが有効である。燃焼すると炭素酸化物が発生する。元来フラックスは火気と共存するものですから、作業現場には消化剤及び保護具を備えてください。

7) 漏出時の措置

付近の着火源を取り除き、風下の人を待避させる。  
露出液を密閉容器に集め、残留液を砂または不活性吸収剤に吸収させて安全な場所に移す。  
決して露出液を下水や側溝等に流してはならない。  
[少量漏れた場合] 布で拭き取るか、土砂をかけて染み込ませるか、捕集剤を使用して回収する。  
[多量に漏れた場合] 土砂で流れを止め、安全な場所に導いて回収する。  
回収作業の際には必ず保護具を着用し、風上から作業する。

8) 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い: 換気の良い場所で行う。可能であれば保護具(手袋、マスク)を着用する  
作業終了後は速やかに洗面、うがい等を行いフラックスを洗い流す  
保管: 冷暗所に密封保管し高温物を近づけない

9) 暴露防止装置

管理濃度: -  
許容濃度: 10mg/m<sup>3</sup>(グリセリンミストとして)  
設備対策: 排気設備のある所で、換気をしながら取り扱う  
保護具: 保護眼鏡: ゴーグル型眼鏡等。  
保護手袋: ゴム手袋等。  
保護衣: 着用  
その他: 防塵マスク

10) 物理及び化学的性質

形態：無色または淡褐色の液体  
沸点：290℃  
比重：1.25  
溶解度：水20℃ ∞

11) 危険性情報

引火点：345℃ 発火点：429℃ 引火性液体  
発火性：自然発火性、水との反応性なし  
酸化性：なし  
自己反応性及び爆発性：特になし  
安定性、反応性：通常の状態では安定である。

12) 有害物質情報(人についての症例、疾学的情報含む)

皮膚腐食性：皮膚組織を腐食する  
刺激性(皮膚、目)：眼、皮膚、粘膜を刺激する。  
急性毒性：知見なし

13) 環境影響

分解性：易生分解性あり  
蓄積性：殆どなし

14) 廃棄上の注意

取り扱い及び保管上の注意の項の記載による他、引火性液体に関する一般的注意事項による。低濃度排水は活性汚泥等で処理してください。

15) 輸送上の注意

陸上輸送：消防法危険物に該当  
海上及び航空輸送：非危険物  
その他：引火性液体「火気厳禁」

16) 適用法例

消防法危険物：第4類第3石油類(指定数量4千リットル)  
毒劇物法：該当せず  
安全衛生法：知見なし

17) その他

調査文献：食品添加物公定書解説  
注意：危険、有害性の評価は必ずしも十分でないので、取り扱いには十分注意願います。この情報は新しい知見または試験などにより改定される事があります。

使用禁止物(鉛、カドミウム、六価クロム、水銀、PBB、PBDE)は含有していません。